

災害時に活用可能な船舶のマッチングシステムについて



Chugoku Transport & Tourism Bureau

災害時に活用可能な船舶のマッチングシステムについて



概要

災害発生時に実働省庁や緊急災害対策本部等から船舶の手配依頼があった場合に、活用ニーズに応じた船舶の候補を迅速に抽出することを目的として構築。

システムのデータ項目

○想定される船舶活用ニーズ

- ・人員の輸送
- ・車両の輸送
- ・物資の輸送
- ・ガソリン等燃料油輸送
- ・ホテルシップ等被災者支援機能

※船舶特定に必要なデータについては、運用開始以後にも追加できるようにしておく。

	マッチングに関する項目	輸送ニーズへの対応能力に関する項目	輸送以外のニーズへの対応能力に関する項目	その他必要な項目
船舶情報	船名・船舶番号、総トン数、航行区域、全長、全幅、満載喫水、サイドランプウェイの有無・長さ、サイドスラスタの有無	船種、旅客定員、車両航送能力、載貨重量トン数、輸送燃油種類、クレーンの有無、危険物運送船適合証の有無、サイドランプウェイの強度、積載車両の高さ制限	入浴施設の有無、調理室の有無、宿泊可能人数	船舶所有者（連絡先含）、運航事業者（連絡先含）
港湾情報	港湾名・地区名・施設（バース）名、岸壁延長、岸壁水深、岸壁天端の高さ、係船柱強度	バックヤードの有無（岸壁背後の奥行）		港湾管理者（連絡先含）

※ 事業者の連絡先は、緊急時に必ずつながる連絡先を登録

災害時の活用イメージ



東日本大震災時において、被災地への支援物資、自衛隊、警察、消防等の要員や車両の緊急輸送など、極めて重要な役割を果たしており、そのポテンシャルの高さが再認識されている。

○燃料輸送の代替輸送



※震災発生後1か月半(4月末)までの内航海運による緊急輸送の実績
(出典)内航総連資料より

タンカー: 燃料油・LPG等 約205万キロリットル
⇒タンクローリー約10万台分に相当

一般貨物船: 家畜飼料 約6万2千トン
⇒10トントラック約6千台分に相当

RORO船: 自動車専用船: 貨物車両、建設機械、消防車など 約230台

○フェリーによる自衛隊などの輸送

